

### 地元選手活躍の跡

## 大島康男選手が大健闘

### インターハイでは 日高(女子フィギュアー)が初優勝

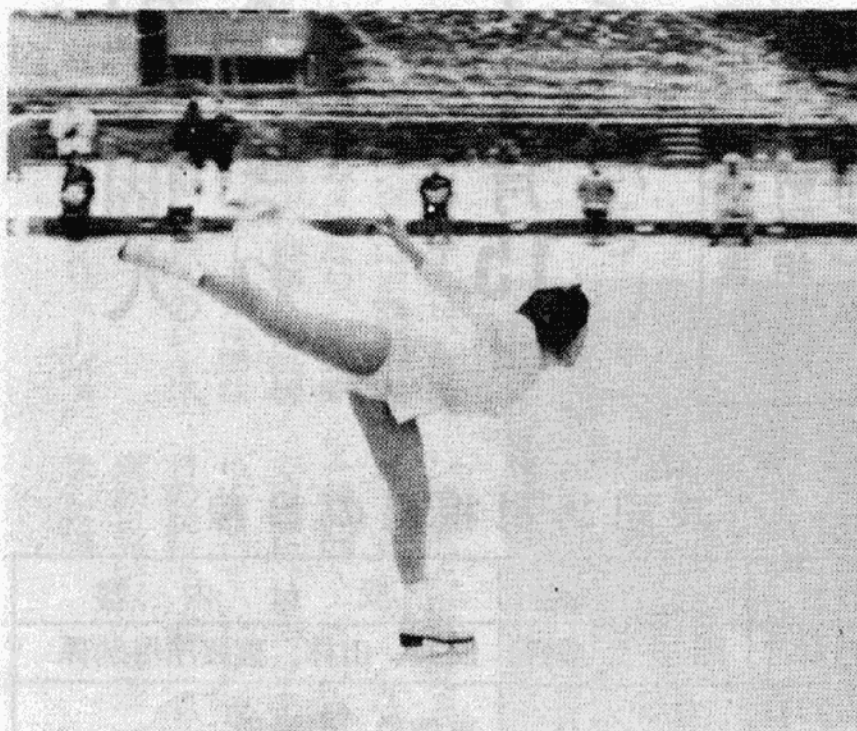
**国体**  
**スピード**  
 大会のはな、スピード競技では、高校男子二、五〇メートル

地元の栃木県ではインターハイに七三人、国体に二〇二人の大選手団を繰り出し、上位入賞をめざして連日、熱戦、力走を展開しました。

**インターハイ**  
 国体に先だって行なわれたインターハイでは、日高、作新学院、今高の三校が出場、フィギュアー(女子)にエントリーした日高は強豪の関西勢をふりきり、団体でみごと優勝をなしました。また、スピードでは四人の入賞者を出す健闘をみせました。しかし、期待のアイスホッケーでは第一シードの日高をはじめ、作新学院、今高の三校がいずれも二、三回戦で惜敗したことは残念なことでした。



はえある優勝 大島選手



美しいフォームで健闘の後藤選手

ルで大島康男(日高)選手が期待の優勝をとげたほか、予選レースで六個の大会新記録が更新された高校男子五、〇〇〇メートルでは予選通過者一二選手のうち地元の三選手がそろって決勝に進出するという快挙をとけ結局、斉藤久雄(日高)選手が三位、星光一(日高)選手が八位に入賞、また、五〇〇メートルでも大島康男選手が三位に、今泉一男(日高)選手が五位に入賞するという活躍をみせ、スケット木の意気を大いにあげました。このほか、別表のような好成绩をおさめ開催としての面目を保ちました。

**アイスホッケー**  
 期待の大きかったホッケーは

一般、高校ともに北海道勢に屈し、念願の優勝を果たすことができませんでした。一般は準決勝で、また、高校は決勝でそれぞれ北海道と顔を合わせましたが、選手層の厚い北海道勢に優勝の夢を断られました。

**フィギュアー**  
 高校の部では、さきのインターハイで女子団体優勝をとげた日高の三選手がよく健闘し、総合で六位入賞、また一般女子では選手層が薄いなかにあつて手塚千代子選手が健闘、練習不足をよくカバーして東京、関西勢にくいさがり、一三位にはいったことはりっぱでした。



準決勝で熱戦を展開 (惜しくも北海道に敗れる一般)



優勝の夢たれた日高チーム(インターハイ)